

1 会議の概要

- ◆ 天野事務局長は、“Atoms for Peace and Development”を掲げ、原子力科学・技術の応用に関する途上国への技術協力を重視。SDGs達成への貢献にも取り組んでいる。
- ◆ IAEA技術協力局は、設立から60年間の技術協力の成果を総括し、今後の技術協力プログラムのあり方、SDGsへの貢献等について議論を行うため、5月30日から6月1日にかけて初の国際会議を開催。政府関係者、国際機関関係者等、約1100名が参加。

2 我が国の貢献

- ◆ パネルディスカッションへの参加。
 - 中根科学技術協力担当大使 「開発における日本と国際機関の協力、日本から見たIAEAの強み」
 - 金井JICA技術審議役 「JICAによる技術協力を通じたパートナーシップについて」
 - 畑澤大阪大学教授 「IAEAと大阪大学の協同によるアジアオセアニアの核医学診療人材育成基盤の構築と運営」
- ◆ IAEA事務局幹部との個別の意見交換
- ◆ 今次会議に合わせて、以下プロジェクトへのPUIを通じた合計約130万ドルの支援を決定、緊急事態への対応及び緊急事態に対して事前に備える能力の強化を支援。
 - ペルーの洪水被害に対する緊急支援
 - ASEAN諸国に対する原子力緊急事態への準備及び対応能力強化
 - 中南米カリブ地域諸国の放射性廃棄物管理のための国家レベルの規制枠組み及び技術向上
 - 欧州地域諸国におけるヤブ蚊に対する遺伝制御プログラムの構築
 - アフリカにおける家畜病診断能力の強化及び早期警戒システムの構築



スピーチを行う中根大使

(Photo:IAEA)
アフリカにおける家畜診断能力強化

3 意義

- ◆ 天野事務局長が今後も“Atoms for Peace and Development”を推進していく上で、本会議は重要なステップ。我が国は、3人のパネリスト及びPUIを通じた支援を通じて、会議の成功に貢献、本分野でのプレゼンスを示した。
- ◆ IAEAがSDGsに取り組む上で、開発プレーヤーとのパートナーシップ強化は重要な課題。JICAの本会議への参加及び事務局幹部との意見交換を通じて、IAEA、JICA双方が今後の連携の可能性につき理解を深めた。
- ◆ 途上国は、原子力の平和的利用を「奪い得ない権利」として重視。IAEA支援を通じた原子力の平和的利用のための国際協力の推進は、軍縮・不拡散の強化、2020年NPT運用検討会議の成功のためにも重要。